

■ (公財)大阪市博物館協会 平成26年度外部評価委員会 評価シート

大阪市立美術館	担当委員名	川口幸也
1. 「措置状況」について		
<p>【学芸員の人材確保】 契約職ではあるが、2人の学芸員が採用されたのは一歩前進である。今後10年、15年の幅で、学芸員の年齢構成、男女比、専門分野などの推移を考慮した想定はなされているのだろうか。</p>		
<p>【企画展】 コレクションやコレクターに的を絞った企画展は、今後も引き続き、巡回をはじめ、市内内外の他館との連携を視野に入れながら、積極的かつ持続的に行っていただきたい。とくにコレクター個人の功績に着目することは、かつて大阪にはこのような篤志家がいたということを経験者に知ってもらい効果が、将来の街づくりに有形無形の恩恵をもたらすと期待される。</p>		
<p>【文化財としての市立美術館】 建物の大規模改修に際しては、古い建物の存続と再利用に価値があり、それが先々、新たに開設予定の「新美術館」と一線を画する個性の一つとして、この美術館の財産になるということを十分に踏まえていただきたい。その意味では登録文化財への移行は願わしい。</p>		
<p>【常設展示】 館のコレクションをどのように見せようか、すでに様々な努力がなされてはいるが、数多くの優品を有するコレクションをどのように展示するか、展示をどのように広報するかについての館の基本方針がもうひとつ見えてこない。基本方針を明確にし、コレクション展示を系統的に鑑賞する、中核的な観客層をもっと増やしていくことが望まれる。大規模な企画展・特別展ばかりが目を集めがちだが、一方で、コレクション展の充実と観客数の増大を重視する美術館、博物館が増えつつある。全国的に見ても誇るべきコレクションを持つ市立美術館が、事業全体に占める常設展示の比重をもっと高めていくことを期待する。</p>		
2. 【自己評価シート】《改訂版》について		
<p>【居場所の提供】 館の使命について、市立美術館に限らず、他の美術館、博物館でも同じように、市民への啓発的な役割を強調しているが、一方で、少子高齢化や社会的格差の拡大を考慮すれば、多様な人々に対して単に居場所を提供するといった、敷居を下げる視点もあってよいのではないかと思う。もっとも、市立美術館の場合、仮に天王寺公園が無料になった場合、どのような事態が生じるか、予測の難しい面もあるが。</p>		
<p>近々、大規模な改修を検討中とのことであるが、ぜひバリアフリーについては考慮してほしい。その場合、館内の巡路のバリアフリー化は勿論であるが、特に要望しておきたいのは、最寄りの交通機関の駅からの経路のバリアフリー化である。</p>		
<p>【収支改善と委託金】 ここ数年、収支が堅調な推移を見せているが、とくに平成25年度における収支の改善は、館の積極的な努力の成果として評価できる。「北魏石造仏教彫刻の展開」「山の神仏—吉野・熊野・高野」等、館の得意分野を生かした魅力ある特別展への取組みは、地味だが着実な支持に繋がっているのだろう。とはいえ、平成25年度のような大量動員型の企画展が毎年行われることは期待しにくいので、これはむしろ例外的な事態と受け止めたい。他方で、市からの委託金が漸減傾向にある点も見逃せない。</p>		
<p>【資料収集】 収蔵品の購入がゼロという事態については、館の魅力の充実という観点から問題があり、何らかの改善策が望まれる。</p>		
3. これからのあり方についてのご意見		
① 運営の基本事項・全般的な事項に関するもの		
<p>【改修計画への期待】 あべのハルカスの開業に伴い、天王寺地区の環境は変わったと言うべきであろう。大阪市の方で大規模改修の計画があり、設備新設、改善、魅力向上に取り組んでおられるが、なによりも、多くの市民、一般観覧者、旅行者が訪れやすい美術館になるように努力していただきたい。とくに改修に際しては、美術館の基本施設だけでなく、観客へのサービス施設にも目配りをしてほしい。歴史の重みと今日的な感覚が共存する、快適で、開放的な施設をめざし、予想される新設の美術館も踏まえた上で、ぜひ従来の日本にない新しい美術館像を提示していただきたい。</p>		
<p>【多言語化】 外国人の来訪者に快適に鑑賞してもらえよう、案内ボードや説明書の多言語化に取り組むことを要望する。</p>		

【食堂メニュー】案内ボードや説明書の多言語化については、各所でお願いしてきているが、ここでは特に食堂のメニューについての改善を要望したい。食事の内容が純粋に日本人向けメニューで、品書きも日本語のみである。内容に比して値段も高い。様々な国、地域から来訪する外国人には料理の中身も分からず、価格の面でも親しみにくいのではないだろうか。大阪という土地柄を考えると、この点はもっと配慮されている。

4. その他(設置者への要望等)

【バリアフリー】最寄りの交通機関の駅からの経路のバリアフリー化をもっと進める必要がある。高齢者がますます増加する環境の中、JR天王寺駅からでも地下鉄動物園前駅からでも、その距離の長さや階段の多さは呆れるばかりである。先日、市立美術館を訪問した際に、高齢者が石段で難儀されていたし、目の不自由な方も経路が解らなくて困っておられたのを目にした。ルートを表示板の設置も含めて改善を強くお願いしたい。